

関東ニュービジネス協議会 冠講座「ベンチャービジネス」

文京学院大学 経営学部 2009年10月作成

文京学院大学では、関東ニュービジネス協議会(NBC)との包括提携に基づく共同事業推進の一環として、19年度後期から経営学部3年生を対象とした科目「起業と事業創造」(櫻澤教授)、20年度前期から経営学部2年生を対象とした科目「ベンチャービジネス」(櫻澤教授)において、NBCより特別講師をお招きしております。21年度前期科目「ベンチャービジネス」でも以下の5名の経営者の方を講師としてお招きしました。

第1回 4月27日 (株)トリオン 代表取締役社長 木地本朋奈氏

トリオンは、安全衛生と省エネルギーエンジニアリングサービスを提案している企業です。講義は、ご自身の学生時代から就職、起業にいたるまでの体験談、そして環境や地球温暖化の問題と、その問題に取り組むトリオンの事業について。「創業とは、想いである。情熱である。」「やりたいって決めている人は、夢に日付を入れるといい。日付を入れると、その日付に達成するにはどうしたらいいかが分かってくる」など、パワフルな言葉を交えて語っていただきました。最後に温泉施設のチケットをかけての大じゃんけん大会というサプライズも。学生も当初はやや緊張しておりましたが、後半には質問も多くなり、社長をうならせる1シーンもありました。



第2回 5月18日 アテナイオス(株) 代表取締役社長 横井裕之氏



アテナイオスは、今注目の、「食と食空間」を評価・分析する日本初の資格「フードアナリスト」を統括する「日本フードアナリスト協会」を運営し、「フードアナリスト」を活用した飲食店に関する総合ソリューション事業を展開しています。講義では、この「フードアナリスト」の現在の知名度を誇るまでになる成長過程を、ご自身の起業から現在に至るまでの過程と重ねながら語っていただきました。途中、豪華賞品つきのフードアナリスト検定クイズに挑戦する場面も。「まずは3年頑張れば世界が変わりますよ。3年間頑張るって、めまいがするような世界に見えますよね。まずは3日でいいです。3日出来たら、3週間頑張れるんです。3週間頑張れたら、実は3ヶ月頑張れるんです。3ヶ月やり切ったら、だいたい3年くらい持つようです。それで、一回決めたらもう甘えは許さず、続けてください」というメッセージに学生は聞き入っていました。



第3回 6月1日 (株)フタバファー 代表取締役社長 今井千晶氏



フタバファーは 毛皮ブランド「ロイヤルチエ」の販売を行っており、東京の帝国ホテル、ニューオータニに店舗を構えています。講義では、今や日本だけでなく、アメリカやカナダでも販売され、国際的なブランドとなった「ロイヤルチエ」の毛皮ビジネスの国際化プロセスを中心に、今井千恵氏の創業から、ブランド設立を経ての今日までの経緯、そしてニューヨークなど国際的な舞台でのファッションショーのお話などを語っていただきました。当日は、2000万円以上の毛皮が教室に並べられ、学生5名が実際に試着する場面も。学生は今井千晶氏のお話に驚きの連続といった感じでしたが、社長ご自身が、20代で社長に就任し、自分と同世代の人にもファーの良さを知ってもらいたいと活動されてきたこと、また「人にはそれぞれやり方がある。どんな時代や環境も言い訳にはいけない」というメッセージに、学生たちはとても共感しているようでした。



第4回 6月15日 (株)セルシス 取締役会長 川上陽介氏



セルシスはアニメ・マンガ制作環境のデジタル化を推進してきた会社であり、今や国内のテレビアニメの9割は同社の製品である「RETAS!PRO」が使用されています。講義では、マンガ制作ソフトの「COMIC STUDIO」を用いてデモンストレーションをしていただいた他、コンテンツの流通・コミュニケーションを促進する新事業についても語っていただきました。上場のきっかけは、NBCのベンチャー向けの資金調達委員会に参加し、そこでベンチャーキャピタリストと出会い、ソフトの開発に資金投入ができたことが大きく影響しているとのこと。アニメのデジタル化、マンガのデジタル化を推進し、現在は500億ともいわれる携帯のコミックマーケットでの事業展開へと至る経緯についても詳しくお話いただきました。自ら、「僕はプログラマーなんです」と仰る川上氏は、もともとマンガやアニメに興味があったわけではなく、CGの仕事の経験からアニメ制作支援ソフトの開発を思いついたとのこと。経営のことはよく分からないと語りつつも、業界周辺にアンテナを張り巡らし、常に次の一手を考えているその姿に学生は圧倒された様子でした。



第5回 6月29日 (株)ソリスト 代表取締役社長 西川貴生氏



講義テーマは、新規事業立ち上げの秘訣とグローバル化へ対応していく上で、良いキャリアを築き、ビジネス能力を身につける最適方法について、西川氏のこれまでの体験を交えながらお話いただきました。自ら「創業者とサラリーマンの間」、「赤字会社の立て直しが専門」と語る西川氏は、大学2年で起業し、その後自分を鍛えなおすためにサラリーマンとなった経歴の持ち主。学生時代に起業した会社は2~3社、さらに社会人となって2社を起業し、サラリーマンとして7社での仕事を体験されています。「会社の出発点とは利益最大化のゲームである」「企業の代表取締役の責任の重さ」「引き受けた事業を成功させることが何よりも大事」「自分のやりたいことをやる権利をつかむことが重要」というメッセージに学生は強く引き込まれた様子でした。講義の最後には、昨年度から櫻澤ゼミの研究の一環として西川氏にインタビュー調査などを行っている3年生の学生が「自分も起業したいと考えています。起業の難しさを本日の講義で改めて痛感しました。自信や実績をつけるために、大学での勉強などもっと努力しなければいけないと思いました。」と、熱く自分の思いを語る場面も見受けられました。その言葉に、西川社長は「では、贈る言葉ではないけれども…。僕の周囲の一代で会社を作った人たちは、皆個性がばらばらなんだけど、一つだけ共通点があります。それは『成功するまでやり続けたこと。』おそろく失敗はひとつふたつではないだろうけど、やり続けて成功すればそれらは必ず挽回できます。皆さんは、このような機会があってもすごく有利だと思います。頑張ってください。」と学生へエールを送っていただきました。

